伊勢物語

WB 1
(2) 止
21

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語 2巻』 請求記号 WB1-21

ガラス使用

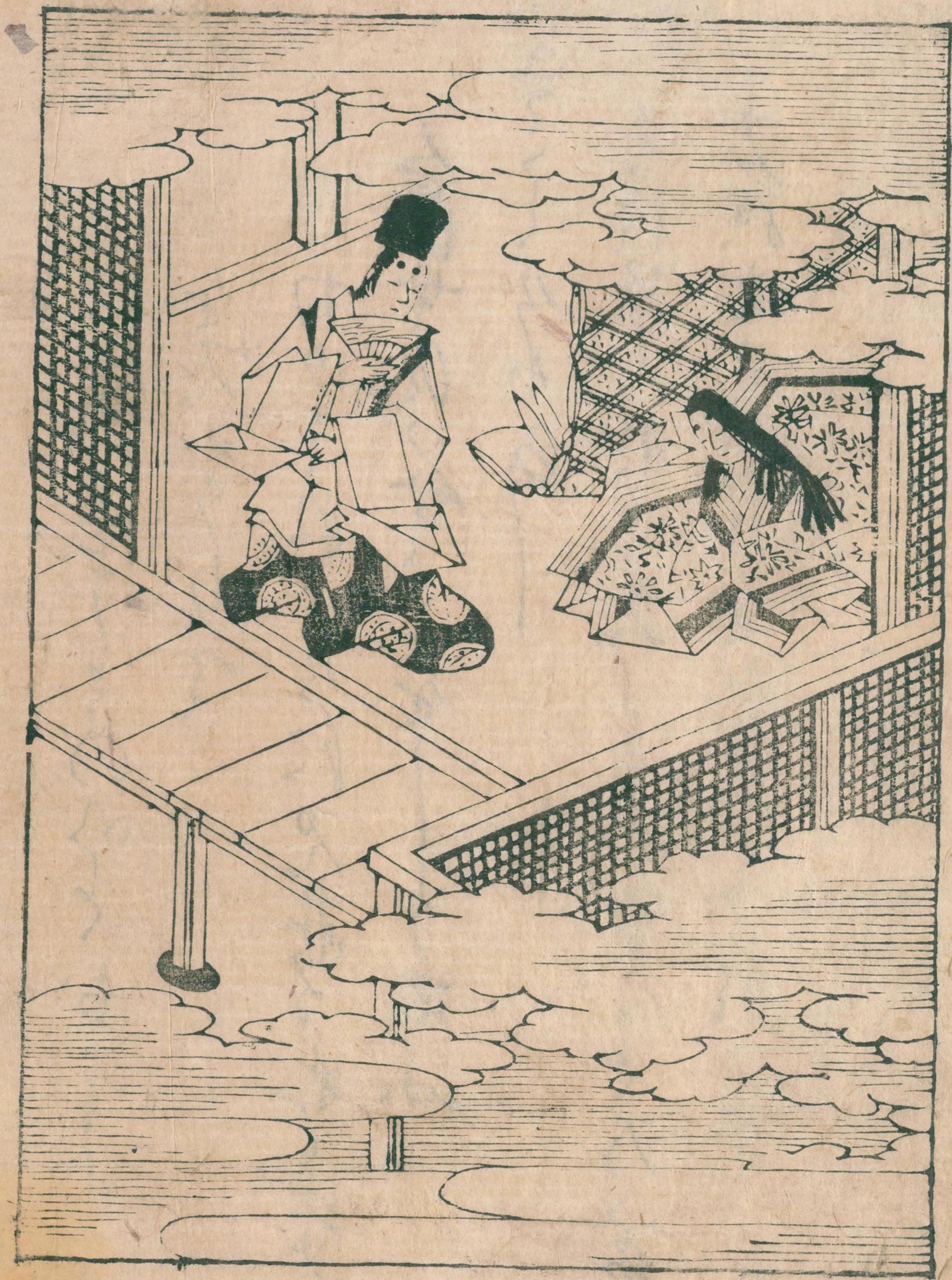
15.11.25
国会図

National Diet Library.

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語 2巻』 請求記号 WB1-21

ガラス使用

むかし男ありけりうらむる人をうらみて
とりのこをとをづゝとをはかさぬとも
おもはぬ人をおもふものかは
といへりければ
あさ露はきえのこりてもありぬべし
たれかこのよをたのみはつべき
又をとこ
ふく風にこぞのさくらはちらずとも
あなたのみかた人のこゝろは



一愚見 経文曰是身無常念々不住猶電光暴水幻炎亦如畫水隨畫隨合

[illegible]

又女返し

ゆく水にかずかくよりもはかなきは
おもはぬ人をおもふなりけり

又をとこ

ゆく水とすぐるよはひとちる花と
いづれまててふことをきくらん

あだくらべかたみにしける男女の
しのびありきしけることなるべし

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語 2巻』 請求記号 WB1-21

ガラス使用

五十一

むかし男人のせんざいに菊うへける所

うへしうへば秋なき時やさかざらん

花こそちらめ根さへかれめや

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語 2巻』 請求記号 WB1-21

ガラス使用

[illegible]

五十二

昔おとこありけり人乃もとよりかざりちまきおこせたりける返事に

あやめかる君ハぬまにぞまどひける

我ハ野に出でかるぞわびしき

とてきじをなんやりける

五十三

昔おとこあひがたき女にあひて物がたりなどするほどにとりのなきければ

いかでかはとりのなくらん人しれず

思ふこゝろハまだ夜ぶかきに

[illegible]

五十四

昔男つれなかりける女にいひやりける

ゆきやらぬゆめぢをたのむたもとには

あまつそらなる露やおくらん

五十五

昔おとこおもひかけたる女のえうまじうなりてのよに

おもはずはありもすらめどことのはの

をりふしごとにたのまるゝかな

[illegible]

五十六

昔男ふして思ひおきて思ひ

思ひあまりて

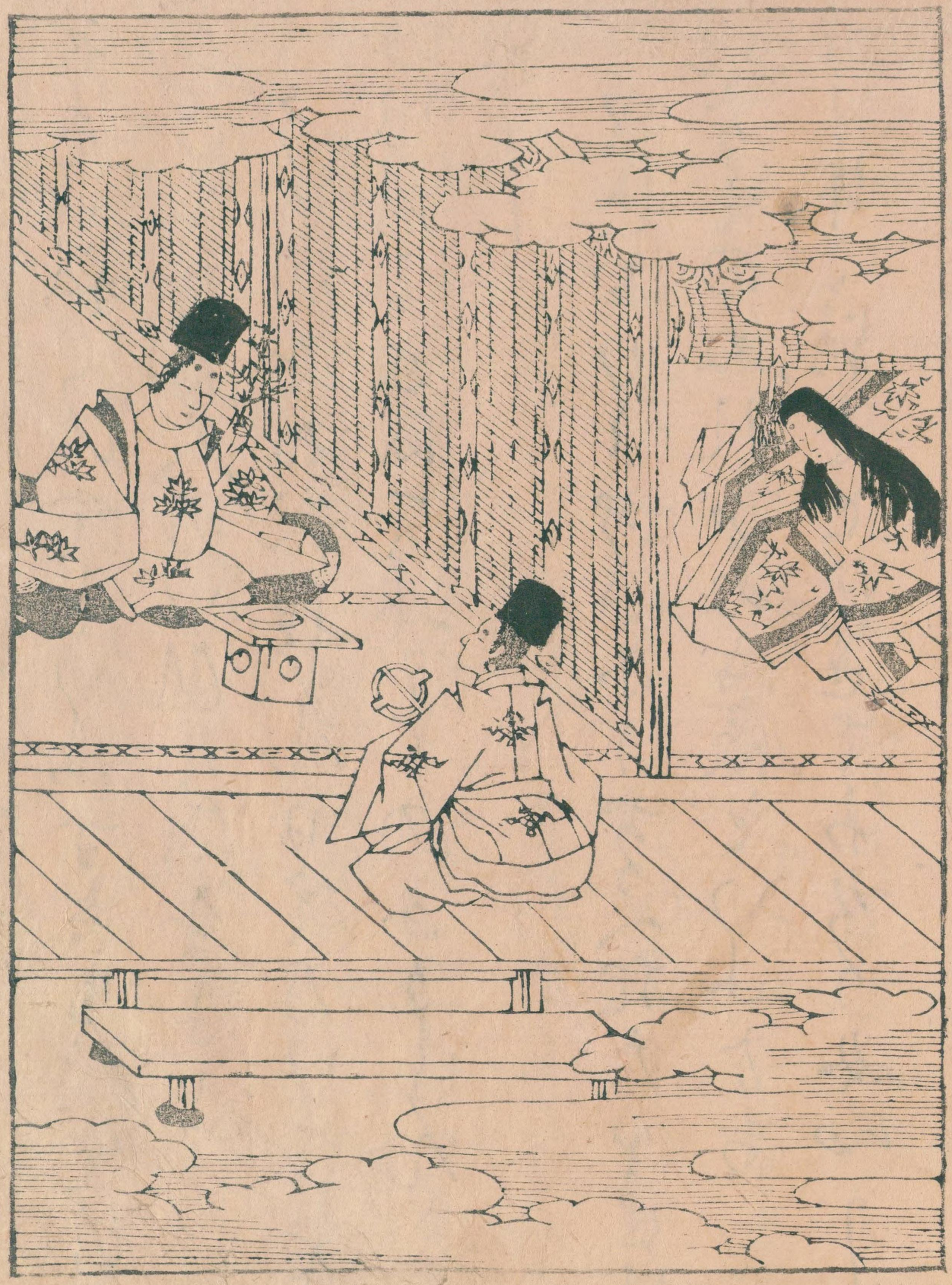
詩経大田篇曰彼有不穫穉此有不斂穧彼有遺秉此有滞穂伊寡婦之利

かりにもおにのすだくなりけり
とてなむいだしたりける。このめども、ほ
ひろはんといひければ
うちわびておちぼひろふときかませば
我もたづらにゆかましものを

五十九
むかしおとこ京をいかゞ思ひけんひんがし
山にすまむとおもひいりて
すみわびぬいまはかぎりと山ざとに
身をかくすべきやどもとめてむ

かくて物いたくやみて志にいりたりければ
おもてに水そゝぎなどしていきいでゝ
わがうへに露ぞおくなるあまの河
とわたる舟のかいのしづくか
となんいひていきいでたりける

六十
むかしおとこありけり宮づかへいそがしく
心もまめならざりけるほどの家とうじ
まめにおもはんといふ人につきて人の国
へいにけりこのおとこ宇佐の使にて



にていきけるにある国のしぞうの
官人の妻にてなむあるときゝて女あるじ
にかはらけとらせよさらずはのまじとい
ひければかはらけとりていだしたりけるに
さかななりけるたちばなをとりて
さ月まつ花たちばなの香をかげば
むかしの人の袖の香ぞする
といひけるにぞ思ひいでゝあまになりて
山に入てぞありける

一 祗承 二字音にしぞうと訓ず

三体詩注曰…橘…

…を文橘といふ…

六十一

昔おとこつくしまでいきたりけるに
これは色このむといふすきものとすだれ
のうちなる人のいひけるをきゝて
そめ河をわたらん人のいかでかは
いろになるてふことのなからん

女返し

名にしおはゞあだにぞあるべきたはれ島
なみのぬれぎぬきるといふなり

一ぬれぎぬ [illegible] [illegible]の下の[illegible] [illegible]の[illegible]

六十二

昔年ごろをとづれざりける女心
かしこくやあらざりけんはかなき人のことに
つきて人の国なりける人につかはれて
もと見し人のまへにいできてものくはせ
などしけりよさりこのありつる人たま
へとあるじにいひければおこせたりけり
おとこわれをばしらずやとて 或本ニ[illegible]
いにしへのにほひはいづら桜花
こけるからともなりにけるかな
といふをいとはづかしとおもひていらへ

一こけるから 桜花也
一ことさへ [illegible] [illegible]

し物そなたゝをなどいふ事もきゝぬこと伊人
無滲のこぼ哉て有しめもみえ侍もいと
まれといふ

[illegible]

これやこの我にあふみをのがれつゝ
年月ふれどまさりがほなき
といひてきぬぬぎてとらせけれどすてゝ
にげにけりいづちいぬらんともしらず

六十三

むかし世心つける女いかで心なさけあらむ
男にあひえてしがなと思へどいひいで

[illegible]

んもたよりなさにまことならぬ夢
がたりをす子三人をよびてかたりけり
ふたりの子はなさけなくいらへてやみぬ
さぶらふなりける子なむよき御男ぞいでこむ
とあはするにこの女けしきいとよし
こと人はいとなさけなしいかでこの
在五中将にあはせてしがなと思ふ
心ありかりしありきけるにいきあひ
てみちにて馬のくちをとりてかう／＼

一かいまみ 闚 垣見
闚字窺同視也

一百とせに一 [illegible]
[illegible]

一[illegible]

なんおもふといひけれバあはれがりて
きてねにけりさてのち男みえざりけれバ
女おとこの家にいきてかいまみけるを
おとこほのかに見て
もゝとせに一とせたらぬつくもがみ
われをこふらしおもかげにみゆ
とていでたつけしきを見てうばら
からたちにかゝりて家にきてうちふせり
おとこかの女のせしやうにしのびて

一なげきてねとて
[illegible]

たてりてみれバ女なげきてねとて
さむしろに衣かたしきこよひもや
恋しき人にあはでのみねん
とよめるをおとこあはれとおもひてその
夜はねにけり世中のれいとしておもふ
をバおもひおもはぬをバおもはぬものを
この人ハおもふをもおもはぬをもけぢめみ
せぬ心なんありける

六十四

昔おとこみそかにかたらふわざもせざりければいづくなりけむあやしさによめる

吹風にわが身をなさば玉すだれひまもとめつゝいるべきものを

返し

とりとめぬ風にはありとも玉すだれたがゆるさばかひまもとむべき

六十五

むかしおほやけおぼしてつかうたまふ女の色ゆるされたるありけり大みやす所

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語 2巻』 請求記号 WB1-21
ガラス使用

むかしとゝいまそかりけるいとこありける
殿上にさふらひけるあはれなるなかりける
すとくのかさいゐのふりけりをこの女
あひしかたかける男女のたゆさと
けるぞ女のあるところとりきて世ひまわる
まにくはし女いとかくきなわもほろびなん
おくふをきとけひけれは
思ふまへしのあたことぞかけにしる
なふりしかんぞさもあるはあまた

といひそはゆりしよあかたまへ能はい
のなみだうちなきて人居ぬなりをもちて
みなわぬるわれてことの女ともひもひてへ
ゆくさきはなかりのききことゝおもひて
いたむまひけれとこれ人きてわすれぬけ
るつとめてとのものならそのこゝろふくきれ
ともてかくれふけいまでのぼりぬかく
かさはおしはてありてかにこもいさ
ゆらふなかぬへぞはぬなりほわびぬ

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語 2巻』　請求記号 WB1-21

ガラス使用

一せつなう 仮の月[illegible]

一すくせ [illegible]

一流しつかはして [illegible] 流罪 [illegible] 遠流 [illegible] 伊豆 安房 常陸 佐渡 隠岐 土佐 中流 信濃 伊予 近流 越前 安芸

このみかとはかほかたちよくおはしまし
ましてほとけの御名を御心にいれて御
こゑはいとたふとくて申給ふをきゝて
女はいたうなきけりかゝるきみにつかう
まつらてすくせつたなくかなしきこと
このおとこにほたされてとてなんなき
けるかゝるほとにみかときこしめしつけて
この男をはなかしつかはしてけれは
この女のいとこの御息所女をはまかてさ

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語 2巻』　請求記号 WB1-21
ガラス使用

一ゆきひらの〔浮云不然云〕あま人 あまは泉郎と書

まさてくにこめてし　布引のたきを
くろすしきもまてなく
あ海のうたもにほ世出乃おもむきかしと
袖をこうなりぬる世ばかりぞ
また、なよをまだこはおとこの人乃くにより
衆ごとりきはしふえをいかにおもしろく
まそことかはおもしうて男あきれたり
さひあふかと思はこの女もくやしにこもり
あしうれすとあなほとはきえどかひ

一かしらのかみ
かみのかしら
一[illegible]
一[illegible]

見るべきともあらでなむありける
ゆかりともなかりけれ
あはれにもあはぬ男をさしすぐしけれ
ゆえひとわ男は女をあきらかくさあり
きはくく人乃くるしにかわあそびうちふ
いとはしし小拙よてをまちの御描ゆへふ
見まくほしきにいそぎなきまいらせ
水のおほ漂と紀のなほべし布引のたかさなれども
うめどののたきをきなる泉のきぬきさと衣

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語 2巻』 請求記号 WB1-21
ガラス使用

一難波の事 詞難波記 日本紀神武天皇即位前紀戊午年春二月丁未朔丁未皇師遂東舳艫相接方到難波之碕会有奔潮太急因以名為浪速国亦曰浪華今謂難波訛也 [illegible]

六十六

昔おとこ津の国にしる所ありけるに
あにおとゝともだちひきゐて
なにはの方にいきけり なぎさを見れば
舟どものあるを見て
なにはつをけさこそみつの浦ごとに
これやこの世をうみわたる舟
これをあはれがりて人々かへりにけり

六十七

昔おとこせうえうしにおもふどち
かいつらねていづみの国へきさらぎ
ばかりにいきけり かうちの国いこまの山を
見ればくもりみはれみたちゐる雲やまず
あしたよりくもりてひるはれたり
雪いとしろう木の末にふりたり
それを見てかのゆく人のなかにたゞ
ひとりよみける
きのふけふ雲のたちまひかくろふは
花の林をうしとなりけり

[illegible]

国立国会図書館 タイトル『伊勢物語 2巻』 請求記号 WB1-21
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語 2巻』 請求記号 WB1-21

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語 2巻』 請求記号 WB1-21
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語 2巻』 請求記号 WB1-21

ガラス使用

七十

むかしおとこかりのつかひよりかへりきた
りけるにおほよどのわたりにやどりて
いつきの宮のわらはべにいひかけ
ける

みるめかる方やいづこぞさほさして
われにをしへよあまのつりぶね

七十一

むかしおとこいせのさいくうに内の御つかひ
にてまゐれりければかのみやにすきごと
いひける女わたくしごとにて

ちはやぶる神のいがきもこえぬべし
おほみや人のみまくほしさに

おとこ

恋しくはきてもみよかしちはやぶる
神のいさむるみちならなくに

（七十二）

むかしおとこ
うゐかうむりしてならの
さとにいとなめいたる
かすがのさとにしるよし
してかりにいにけり
そのさとにいとなまめいた
るいもうとかみすきて
ものみるけはひしけれ
ばおとこのすけいて
たちかくれてかいまみ
れば女はらからなりけり
おとこなましのみだれ
むかしをおもひけ
ん哥
春日野の若紫のすりごろも
しのぶのみだれかぎり
しられず
となむ
女返し
みちのくのしのぶもぢずり
たれゆゑにみだれそめにし
われならなくに

（七十三）

むかしおとこ
ありけり
ひんがしの五条わたりに
いとていたきあり
けりそこなりける
人をかいまみてよばひ
わたりけるほどに
はじめはそらごとと
思ひけれどねんごろに
いひわたりければ
人の国のかみなりける
ひとの
むすめにしあれば
よばひわたりけるほど
に
あはむとのみいひて
としきりければ
女
わたの原八十島かけて
こぎいでぬと
人にはつげよあまの
つりぶね
といへりければ
おとこ
いほとりあまのかるもに
思ひおこせよ
われもおもはむ
といへりければ
女
あまのかるもに
すむとしらなくに
となむいへりける
おとこ
みるめかるかたをしら
なみ
わたの原よりてこぐあまの
なれなれば
となむいへりける
女
わたの原よりてこぐあまと
人はいへども
かたよりきみを
思ふものかは
となむいへりける
おとこ
わたの原こぎいでてみれば
ひさかたの
雲ゐにまがふ
おきつしらなみ
となむいへりける
女返し
わたの原こぎいでてきと
人にはつげよ
海人の
かるもに
なるとも
となむいへりける
おとこ
わたの原こぎいでてきと
いはずとも
あまのかるもに
すむとしらなくに
となむいへりける
女返し
わたの原こぎいでてきと
人にはつげよ
あまの
かるもに
すむとしらなくに

[illegible]

七十四

むかし男女をいたくうらみて

岩ねふみかさなる山にあらねども
あはぬ日おほくこひわたるかな

七十五

むかし男いせのくにゐていきてあらんといひければ女

おほよどの浜におふてふみるからに
心はなぎぬかたらはねども

といひてましてつれなかりければ男

袖ぬれてあまのかりほすわたつ海の
みるをあふにてやまむとやする

女

岩まよりおふるみるめしつれなくは
しほひしほみちかひもありなむ

又男

なみだにぞぬれつゝしぼる世の人の
つらき心は袖のしづくか

世にあふことかたき女になん

[illegible]

七十六

むかし二条の后のまだ春宮のみやす

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語 2巻』　請求記号 WB1-21

ガラス使用

つねゆきと申すいまそかりてかうの終る
ほどにうたよむ人々をめしあつめて
けふのみわざを題にて春の心はえある
うたたてまつらせ給ふ右馬頭なりける
おきなめはたがひながらよみける

山のみなうつりてけふにあふことは
春の別をとふとなるべし

とよみたりけるをいま見ればよくもあらざり
けりそのかみはこれやまさりけん

あはれがりけり

七十八
むかしたかきこと申す女御おはしまし
けりうせたまひてなゝなぬかのみわざ
安祥寺にてしけり右大将藤原の
つねゆきといふ人いまそかりけりその
みわざにまうでたまひてかへさに山しなの
ぜんじのみこおはします其山しなの
宮にたきおとし水はしらせなどして
おもしろくつくられたるにまうでたまうて

年ごろよそにはつかうまつれどちか
くはいまだつかうまつらずこよひはここ
にさぶらはむと申したまふみこよろ
こびたまうてよるのおましのまうけせさ
せたまふさるにかの大将いでゝた
ばかりたまふやう宮づかへのはじめにたゞ
なほやはあるべき三条のおほみゆきせし
時紀の国の千里のはまにありけるいと
おもしろき石たてまつれりきおほみ

ゆきのちたてまつりしかばある人
のみざうしのまへのみぞにすゑたりしを
しまこのむきみなりこのいしを
たてまつらんとのたまひてみずい
じんとねりしてとりにつかはすいく
ばくもなくてもてきぬこのいしきゝし
よりはみるはまされりこれをたゞに
たてまつらばすゞろなるべしとて人々
にうたよませたまふみぎのむまのかみなり

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語 2巻』　請求記号 WB1-21
ガラス使用

る人のをなんあをきこけをきざみて
まきゑのかたにこのうたつけてたて
まつりける

あかねども岩にぞかふる色みえぬ
こゝろをみせんよしのなければ

となんよめりける

七十七

むかしうぢのなかにみこうまれたまへりけり御うぶやに人〴〵うたよみけりおほぢがたなりけるおきなのよめる

わが門にちひろあるかげをうゑつれは夏ふゆたれかかくれざるべき

これはさだかずのみこ時の人中将の子となんいひけるあにの中納言行平のむすめのはらなり

八十

むかしおとろへたる家にふぢの花うへたる人ありけりやよひのつごもりにその日あめそほふるに人のもとへをりてたてまつらすとてよめる

ぬれつゝぞしひておりつる年の内に春はいくかもあらじとおもへは

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語 2巻』 請求記号 WB1-21

ガラス使用

むかし左のおほいまうちきみいまそかり
けりかもかはのほとりに六条わたりに家を
いとおもしろくつくりてすみ給ひけり神
な月のつごもりがた菊の花うつろひさかり
なるにもみぢのちくさに見ゆるおりみこ
たちおはしまさせて夜ひと夜さけのみし
あそびて夜あけもてゆくほどにこの殿の
おもしろきをほむるうたよむそこにあ
りけるかたゐおきないたじきのしたにはひありきて

一みなよませ──[illegible]

一しほがま [illegible]

[illegible]

ひありきて人にみなよませはてゝよめる

しほがまにいつかきにけんあさなぎに

つりする舟はこゝによらなん

となむよみけるはみちのくにゝいきたりけ

るにあやしくおもしろきところ〳〵おほ

かりけりわがみかど六十よ國のなかにしほ

がまといふ所にゝたる所なかりけりさ

ればなむかのおきなさらにこゝをめでゝ

しほがまにいつかきにけんとよめりける

八十二

むかしこれたかのみことゝ申すみこおはし
ましけり山さきのあなたにみなせ
といふ所に宮ありけり年ごとのさ
くらの花ざかりにはその宮へなむおはし
ましけるその時右のむまのかみなり
ける人をつねにゐておはしましけり
時よへて久しくなりにければその人の
名わすれにけりかりはねむごろにも
せでさけをのみのみつゝやまとうた

にかゝれりけり今かりするかたのゝなぎさの
いゑその院の桜ことにおもしろし
その木のもとにおりゐてえだをおりてかざし
にさしてかみなかしもみなうたよみけり
うまのかみなりける人のよめる
世中にたえてさくらのなかりせば
春の心はのどけからまし
となむよみたりける又人のうた
ちればこそいとゞさくらはめでたけれ

一よのふけ 読之

一月のかくるゝ月を惜みて親王のかくれ給はんをやゝとゞめんとなり

一なべて 此下脱アリ
後撰ニハ下つけてかくれじとあり

かへりて宮にいらせ給ひぬよふくる
までさけのみものがたりしてあるじの
みこゑひていり給ひなんとす十一日の
月もかくれなんとすれバかのむまのかみ
のよめる

あかなくにまだきも月のかくるゝか
山のはにげていれずもあらなん
みこにかはりたてまつりてきのありつね
をしなべてみねもたひらになりななん

やまのはなくは月もいらじを

むかしみなせにかよひ給ひしこれたかの
みこれいのかりしにおはしますともに
にむまのかみなるおきなつかうまつれり
ひごろへて宮にかへり給うけり御
おくりしてとくいなむとおもふにおほみ
きたまひろくたまはんとてつかはさゞりけ
りこのむまのかみこゝろもとながりて
まくらとてくさひきむすぶこともせじ

一枕とて　旅の夜とさへ [illegible]

あきの夜とだにたのまれなくにと
よみける時はやよひのつごもりなりけり
みこおほとのごもらであかし給うてけ
りかくしつゝまうでつかうまつりけるを
おもひのほかにみぐしおろし給うてけり
たまうてけりむ月におがみたてまつらん
とてをのにまうでたるにひえの山のふ
もとなれば雪いとたかしゝひて御むろ
にまうでておがみたてまつるにつれゞ

一おほとの　内寝
一むつき　正月

といと物がなしくておはしましければ
やゝひさしくさぶらひていにしへの
ことなどおもひいでゝきこえけりさても
さぶらひてしがなと思へどおほや
けごとゞもありければえさぶらはでゆふ
ぐれにかへるとて

わすれては夢かとぞ思ふおもひきや
雪ふみわけて君を見んとは

とてなん泣〳〵きにけり

[illegible]

八十四

むかしおとこありけり身ハいやしながらはゝなむ宮なりけるそのはゝなかをかといふ所にすみ給ひけり子ハ京に宮つかへしけれバまうづとしけれどしば〳〵えまうでずひとつ子にさへありけれバいとかなしうし給ひけりさるにしはすばかりにとみの事とて御ふみありおどろきて見れバうたあり

おいぬればさらぬ別のありといへバ
いよ〳〵見まくほしき君かな

かの子いたくうちなきてよめる

世中にさらぬ別のなくもがな
千よもといのる人の子のため

此二首古今十七ニ入り

八十五

むかしおとこありけりわらはよりつかうまつりける君みくしおろし給うてけり正月にはかならずまうでけりおほやけの宮仕しければつねにはえまうでずされどもとの心うしなはで

まうでけるになむありける昔つかう
まつりし人ぞくなるぜんじなるあまた
まゐりあつまりてむつきなればことだつ
とておほみきたまひけりゆきこぼすが
ごとふりてひねもすにやまずみな人
ゑひてゆきにふりこめられたりといふ
を題にてうたありけり

思へどもみをしわけねばめかれせぬ
ゆきのつもるぞわがこころなる

とよめりければみこいといたうあはれがり
給うてみぞぬぎてたまへりけり

八十六

昔いとわかきおとこわかき女をあひ
いへりけりをのをのおやありければつゝ
みていひさしてやみにけり年ごろへて
女のもとに猶心ざしはたさんとや思
ひけんおとこうたよみてやれりけり

今までにわすれぬ人は世にもあらじ
をのがさまざま年のへぬれば

一むかしの哥は
七国名あり一也
一灘とは海のおもての[illegible]
[illegible]

とてやみにけりおとこも女もあひはなれ
ぬ宮づかへになんいでにける
むかしおとこ津の国むばらのこほりあしや
の里にしるよしゝていきてすみけり
むかしの歌に
蘆のやのなだのしほやきいとまなみ
つげのをぐしもさゝずきにけり
とよみけるぞこの里をよみける
こゝをなんあしやのなだとはいひける此

一ゑふのすけ[illegible]
[illegible]

おとこなま宮づかへしければそれを
たよりにてゑふのすけどもあつまり
きにけり此男のこのかみもゑふのかみ
なりけりそのいへのまへの海のほとりにあ
そびありきていざこの山のかみにありと
いふぬのびきのたきみにのぼらんと
いひてのぼりてみるにそのたきものより
ことなりながさ二十丈ひろさ五丈ばかり
なるいしのおもてにしろきぬにいはを

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語 2巻』　請求記号 WB1-21
ガラス使用

一さるは さるはしは滝之

つゝめらんやうになんありけるさるは
たきのうへにわらうだのおほきさして
さしいでたるいしありそのいしの
うへにはしりかゝるみづはせうかうじ
くりのおほきさにてこぼれおつそこ
なる人にみなたきのうたよますかのゑふ
のかみまづよむ

我世をばけふかあすかとまつかひの
なみだのたきといづれたかけん

一ぬきみだる人 白玉の
一かたへの人 諸之人

あるじつぎによむ

ぬきみだる人こそあるらし白玉の
まなくもちるか袖のせばきに

とよめりければかたへの人わらふことに
やありけんこのうたにめでゝやみにけり

一本此歌ニワラテニケリ

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語 2巻』 請求記号 WB1-21
ガラス使用

一宮内卿もちよし
此人は伴のもちよし
といふ 三 称 侍 に
来聴瀑布食辞
独把一杯山館中 毎
驚時節恨飄蓬
儘誇竟違朝旬
満枕梨花非夜風
蜀魂啼来春寂寞
楚魂吟去月朦朧
分明記得還家夢
徐孺宅前湖水東

かへりくるみちとをくてうせにし宮内卿
もちよしが家のまへくるに日くれぬ
やどりのかたを見やればあまのいさり
火おほく見ゆるにかのあるじのおとこ
よむ

はるゝ夜のほしか河辺のほたるかも
わがすむかたのあまのたく火か

とよみていへにかへりきぬその夜
みなみの風ふきてなみいとたかしつとめて

一つとめて 長元

うきみるのなみによせられたるひろひていゑのうち
にもてきぬ女がたよりそのみるをたかつ
きにもりてかしはをおほひていだしたる
かしはにかけり
わたづ海のかざしにさすといはふもゝ
きみがためにはをしまざりけり
ゐなかびとのうたにてはあまれり
やたらずや

（八十八）
（八十九）
（九十）
（九十一）

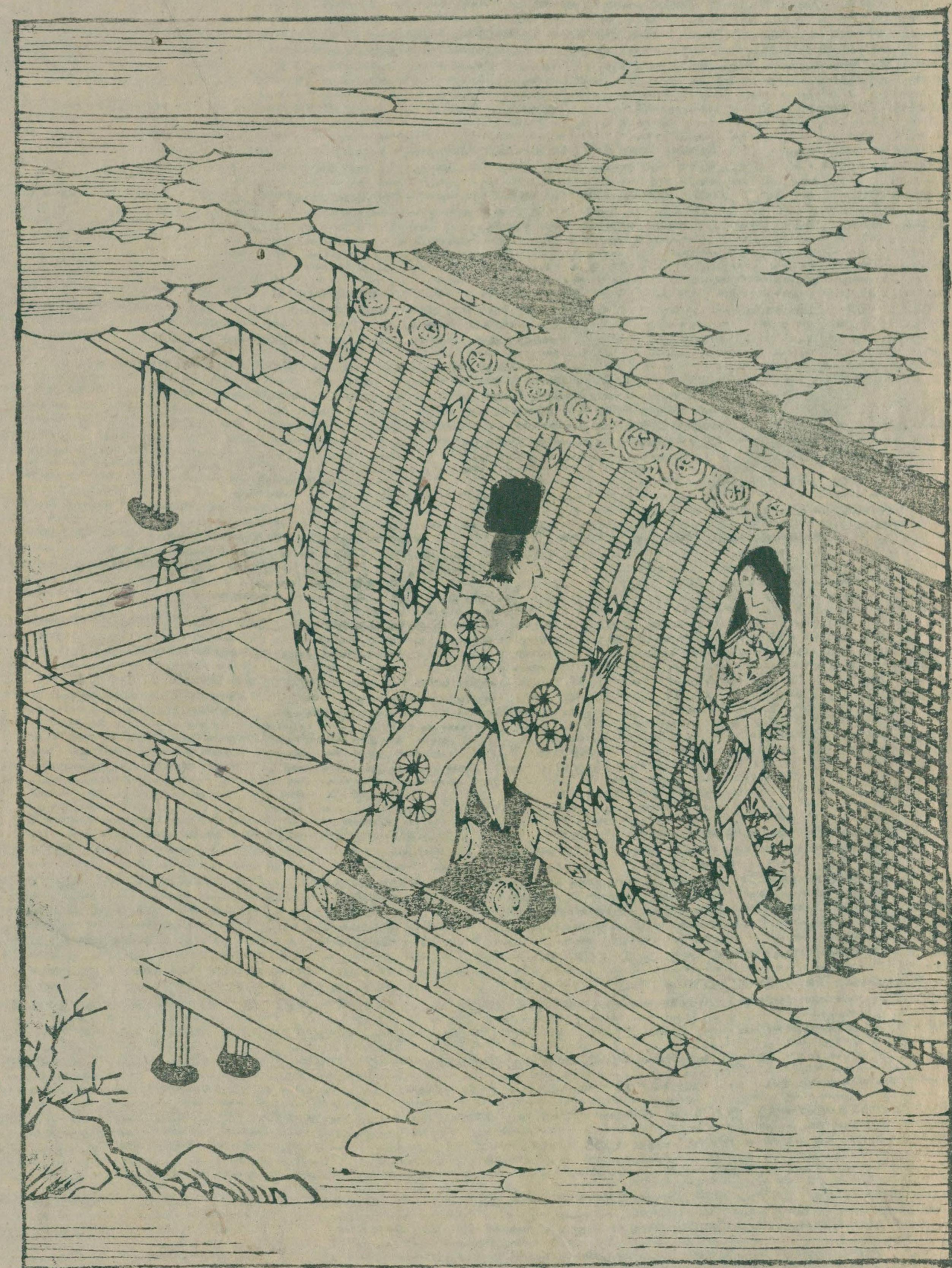
国立国会図書館　タイトル『伊勢物語 2巻』　請求記号 WB1-21

ガラス使用

なほ人をはうらみつへきものになんあり
けれはとてろうしてよみてやれりける時ハ
秋になんありける
秋の夜は春日わするゝものなれや
かすみにきりやちへまさるらん
となんよめりける女返し
ちゞの秋ひとつの春にむかはめや
もみぢも花もともにこそちれ
九十五
むかし二条の后につかうまつる男
ありけり女のつかうまつるをつねに見
かはしてよばひわたりけりいかでものごし
にたいめん（対面）しておぼつかなくおもひ
つめたることすこしはるかさむといひ
けれは女いとしのびてものごしにあ
ひにけりものがたりなどしてをとこ
ひこぼしにこひはまさりぬあまの河
へだつる関をいまはやめてよ
このうたにめでゝあひにけり

九十六

昔おとこありけり女をとかくいふこと月日
へにけり石木にしあらねば心くるしとや
思ひけんやうやうあはれと思ひけりそのころ
六月のもちばかりなりければ女身にかさ
ひとつふたつ出きにけり女いひをこせ
たるいまはなにの心もなし身にかさも
ひとつふたついでたり時もいとあつし
すこし秋風ふきたちなむ時かならず
あはむといへりけり秋まつころほひに



一 いなむ 行 外ナ作也 イヌル
一 くぜち 口舌也

こゝかしこより其人のもとへいなむずなり
とてくぜちいできにけりさりければ
女のせうとにはかにむかへにきたり
されば此女かえでのはつもみぢをひろは
せてうたをよみてかきつけておこせたり
あきかけていひしながらもあらなくに
木葉ふりしくえにこそありけれ
とかきおきてかしこより人おこせば
これをやれとていぬさてやがてのちつひに

けふまでしらずよくてやあらんあし
くてやあらむいにし所もしらずかの
をとこはあまのさかてをうちてなんの
ろひをるなるむくつけきこと人のゝろ
ひごとはおふものにやあらんおはぬ
ものにやあらんいまこそはみめとぞ
いふなる

九十七
むかしほりかはのおほいまうちぎみと申す
いまそかりけり四十の賀九条の家にてせられ

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語 2巻』 請求記号 WB1-21

ガラス使用

一[illegible]後涼殿ハ東ノ後涼[illegible]

一これ[illegible]

のちはたれとしりにけり

百 昔おとこ後涼殿のはさまをわたりければ

あるやむごとなき人の御つぼねより

わすれぐさをしのぶぐさとやいふとて

いださせ給へりければ給はりて

わすれ草おふる野べとはみるらめど

こはしのぶなり後もたのまむ

百一 昔左兵衛督なりけるありはらの

ゆきひらといふありけりその人の家によき

一弁官ハ大ヽ中ヽ少ヽ左右二人[illegible]

一[illegible]良近[illegible]

一[illegible]

さけありときゝてうへにありける左中弁

ふぢはらのまさちかといふをなむまらうど

ざねにてその日はあるじまうけしたり

けるなさけある人にてかめに花を

させりその花のなかにあやしき藤の花

ありけり花のしなひ三尺六寸ばかりなむ

ありけるそれを題にてよむよみはてがたに

あるじのはらからなるあるじしたまふと

きゝてきたりければとらへてよませ

百二

むかしおとこありけりうたハよまざりけれど世の中を思ひしりたりけりあてなる女のあまになりて世中を思ひうんじて京にもあらずはるかなる山ざとにすみけりもとしぞくなりければよみてやりける

そむくとて雲にハのらぬ物なれど世のうきことぞよそになるてふ

となんいひやりける斎宮のみやなり

百三

むかしおとこありけりいとまめにじちようにてあだなる心なかりけり深草のみかどになんつかうまつりける心あやまりやしたりけんみこたちのつかひ給ひける人をあひいへりけりさて

ねぬる夜の夢をはかなみまどろめばいやはかなにもなりまさるかな

となんよみてやりけるさるうたのきたなげさよ

百四

むかしことなる事なくてあまになれる

人ありけりかたちをやつしたれど物や
ゆかしかりけむかものまつり見にいでたりける
を男うたよみてやる
よをうみのあまとし人を見るからに
めくはせよともたのまるゝかな
これは斎宮の物見たまひける車に
かくきこえたりけれバ見さしてかへり
たまひけりとなむ

百五
むかし男かくてハしぬべしといひ
やれりけれバ女
しら露ハけなばけなゝむきえずとて
玉にぬく人もあらじを
といへりけれバなめしと思ひけれど
心ざしいやまさりけり

百六
むかし男みこたちの逍遥し
給ふ所にまうでゝ立田川のほとりにて
ちはやぶる神代もきかず立田川
からくれなゐに水くゝるとは

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語 2巻』　請求記号 WB1-21
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語 2巻』 請求記号 WB1-21

ガラス使用

とつねのことぐさにいひけるをきゝ
おひける男
よひごとにかはづのあまたなく田には
水こそまされ雨はふらねど

百九 むかしおとこともだちの人をうしなへる
がもとにやりける
花よりも人こそあだになりにけれ
いづれをさきにこひんとか見し

百十 昔おとこみそかにかよふ女ありけり それ
がもとより今宵ゆめになん見えたまひ
つるといへりければ男
思ひあまりいでにしたまのあるならん
夜ふかく見えばたまむすびせよ

百十一 むかしおとこやむごとなき女のもとに
なくなりにけるをとぶらふやうにて
いひやりける
いにしへはありもやしけむ今ぞしる
まだ見ぬ人をこふるものとは

返し

志たひもの志るしとするもとけなくに
かたるがごとハこひずぞあるべき

又返し

恋しとハさらにもいはじ志たひもの
とけんを人ハそれと志らなん

百十二 むかしおとこねんころにいひちぎり
ける女のことざまになりにけれバ
すまのあまの志ほやく煙風をいたミ
おもはぬかたにたなびきにけり

百十三 むかしおとこやもめにてゐて
なかゝらぬいのちのほどに忘るゝハ
いかにみじかき心なるらん

百十四 むかし仁和のみかど芹川に行幸し
給ひける時いまハさることにげなく思ひけ
れどもとつきにける事なれバ大鷹の
たかゞひにてさぶらはせ給ひけるすり
かりぎぬのたもとにかきつけゝる

一 鰥 毛詩桃夭篇曰国無鰥民 注 老無妻曰鰥

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語 2巻』 請求記号 WB1-21
ガラス使用

おきなさび人なとがめそかりごろも
けふばかりとぞたづもなくなる
おほやけの御けしきあしかりけり。おのが
よはひをおもひけれど、わかゝらぬ人
はきゝおひけりとや

百十五
むかしみちの国にて、おとこ女すみ
けり。おとこ宮こへいなんといふ。この女
いとかなしうて、むまのはなむけをだにせむと
て、おきのゐて宮こじまといふ所にてさけ
のませてよめる
おきのゐて身をやくよりもかなしきは
宮こしまべのわかれなりけり

百十六
むかしおとこすゞろにみちの国までまどひ
いにけり。京に思ふ人にいひやる
なみまより見ゆるこじまのはまびさし
ひさしくなりぬ君にあひ見で
なにごともみなよくなりにけりとなん
いひやりける

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語 2巻』 請求記号 WB1-21
ガラス使用

百十七

むかしみかど住吉に行幸し給ひけり

我見ても久しくなりぬ住吉の

きしのひめ松いくよへぬらん

おほむ神げぎやうし給ひて

むつましと君はしら浪みづがきの

ひさしき世よりいはひそめてき

百十八

むかし男久しくおともせでわす

るゝ心もなしまいりこむといへりけれ

ば

玉かづらはふ木あまたになりぬれば

たえぬ心のうれしげもなし

百十九

昔女のあだなる男のかたみとて

おきたる物どもを見て

かたみこそ今はあたなれこれなくは

わするゝ時もあらましものを

百二十

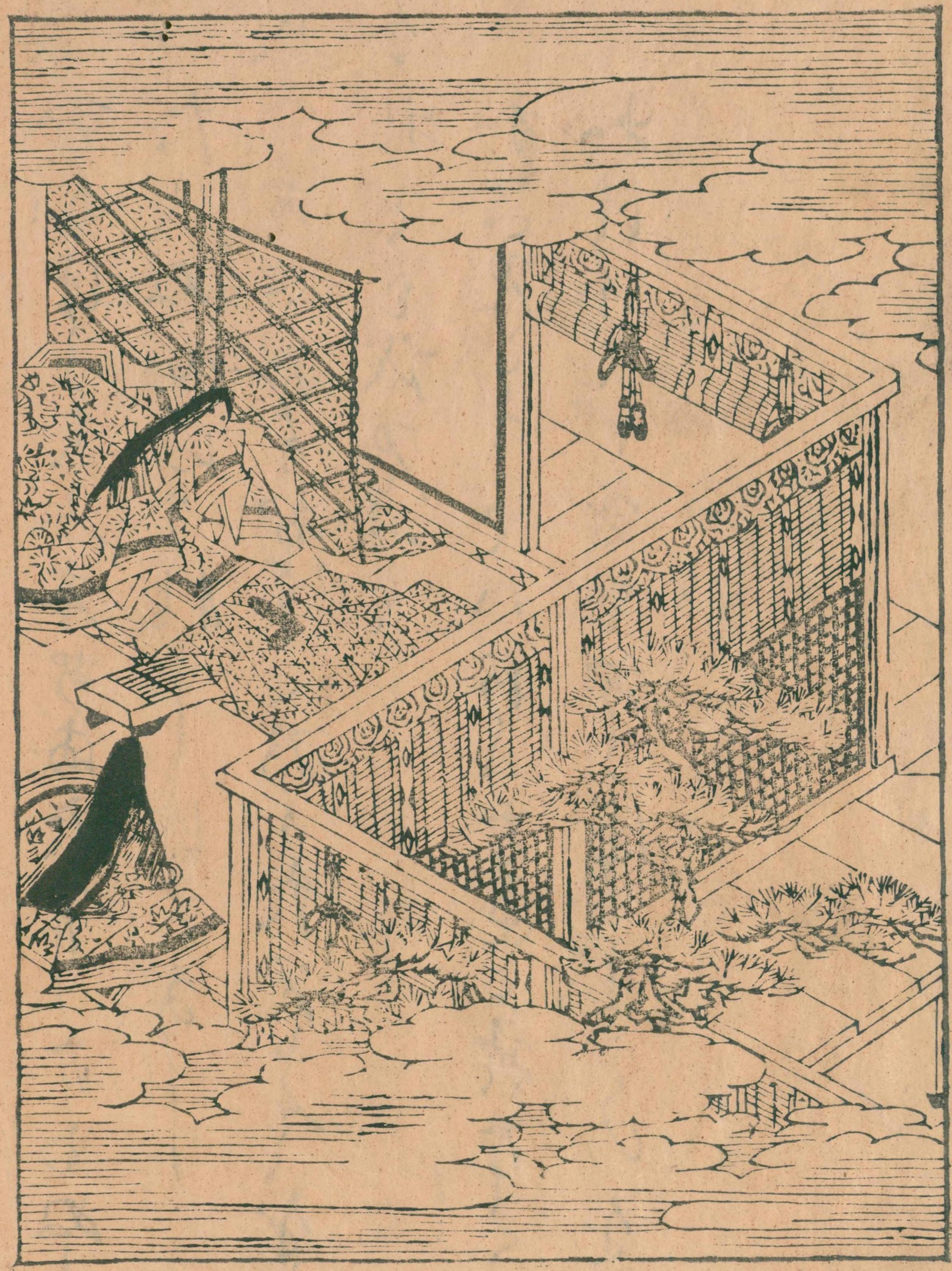
むかしおとこ女のまだよへずとおぼえたるが人の御もとにしのびてものきこえてのちほどへて

あふみなるつくまのまつりとくせなむつれなき人のなべのかずみん

百二十一

むかしおとこ梅つぼより雨にぬれて人のまかりいづるを見て

うぐひすの花をぬふてふかさもがなぬるめる人にきせてかへさむ



返し
うぐひすの花をぬふてふかさはいな
おもひをつけよほしてかへさん

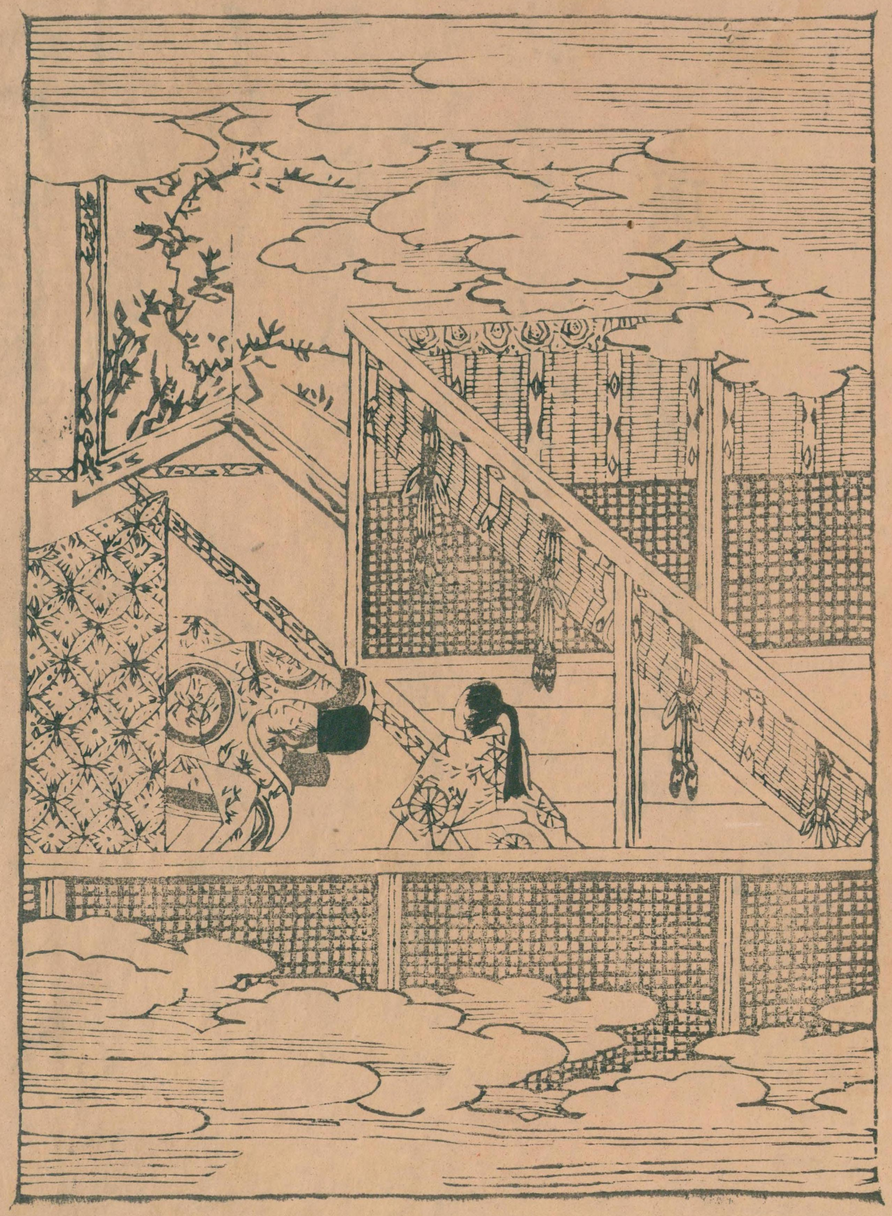
百六二
むかし男ちぎれることあやまれる人有
山城の井でゝ玉水てにむすび
たのみしかひもなき世なりけり
といひやれどいらへもせず

一 ちぎりして飲ミ共て 手飲也

百六三
むかし男有けり深草にすみける女を
やうやうあきがたにやおもひけん
かゝる哥をよみけり
年をへてすみこし里を出ていなば
いとゞふかくさ野とやなりなむ
女返し
野とならばうづらとなりてなきをらん
かりにだにやは君はこざらん
とよめりけるにめでゝゆかむとおもふ心
なくなりにけり

百六四
むかしおとこいかなりける事をおもひける

一 列子 伯牙子和 善鼓琴 列子曰伯牙鼓琴鍾子期善聴 伯牙志在高山 鍾子期曰峨々兮若太山 志在流水子期曰洋々兮若江河 及子期死伯牙破琴絶絃不復鼓琴以為世無知音者



国立国会図書館　タイトル『伊勢物語 2巻』 請求記号 WB1-21

ガラス使用

伊勢物語新刊就余需勘校抑京極黄
門一筆之奥書云此物語之根源古人之説々
不同云々如今以天福年所被与孫女本正之
猶為證愚意訂校之遂成也又圖畫寓中
之趣分以為上下卷雖不足動好事之人猶
聊為之暁雖童眼目而已

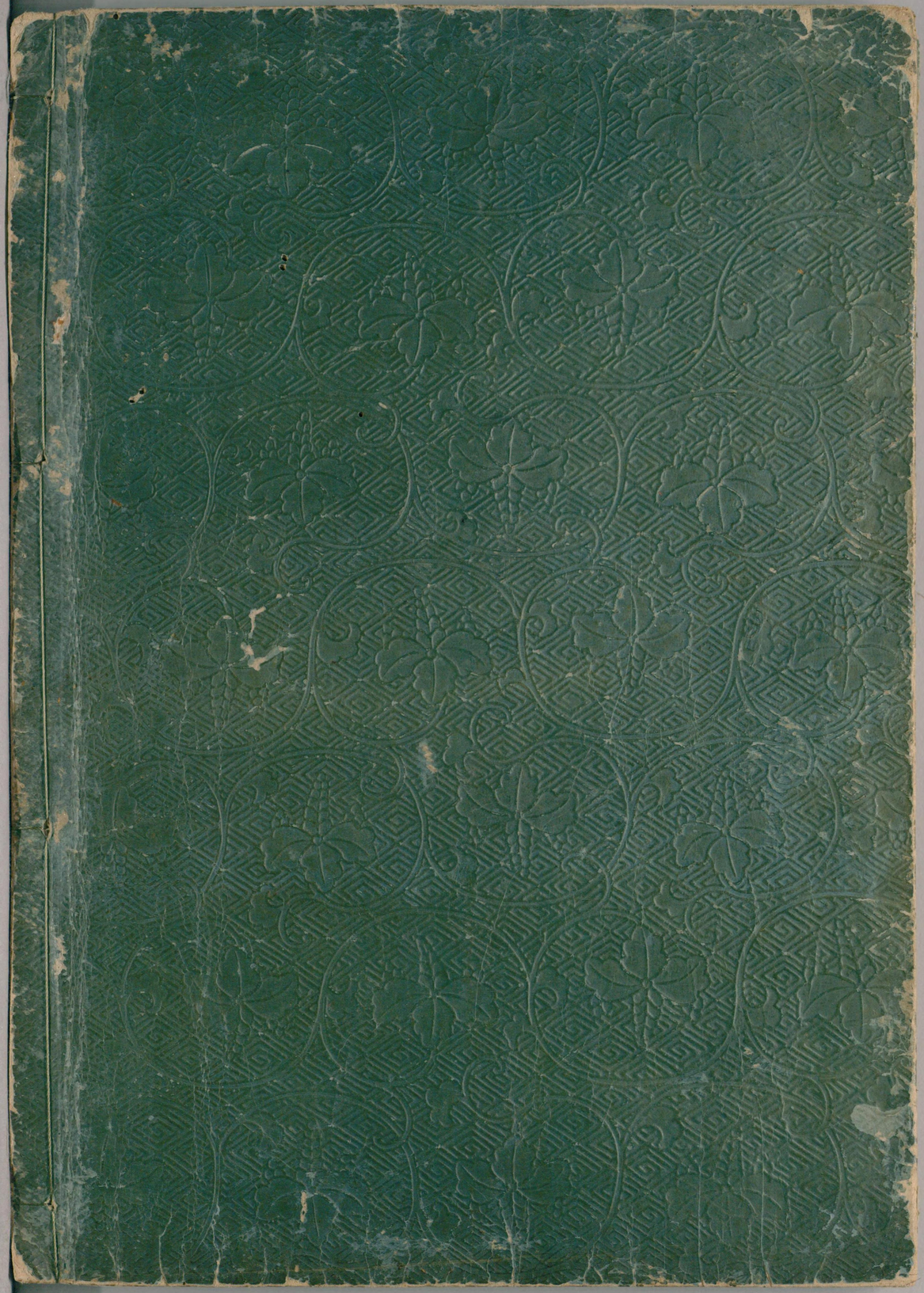
慶長戊申仲夏上澣

也足叟

国立国会図書館

国立国会図書館　タイトル『伊勢物語 2巻』 請求記号 WB1-21

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『伊勢物語 2巻』 請求記号 WB1-21

ガラス使用